

「都市と循環 2026 - Can a city be fermented? -」

キーノート&タイムテーブル発表



2026年5月14日(木)・15日(金)・16日(土)の3日間、カンファレンス&フェスティバル『都市と循環 2026』を京都・二条エリアにて開催いたします。『都市と循環』は、「都市と循環」実行委員会(窓口/R不動産株式会社)が手掛け、「循環」をキーワードに多様な分野の識者が国内外から登壇しセッションするカンファレンス&事業者が集まる見本市です。このたび、キーノートスピーカーの顔ぶれとタイムテーブルが決定いたしましたので、お知らせいたします。

建築、都市、京都にまつわるキーノートスピーカーが登壇



「都市と循環2026」のキーノートスピーチにご登壇くださる方々。(上)デンマークの建築家、ヤン・ゲール氏。(左下)「WikiHouse」を牽引するOpen Systems Lab共同創設者、アラステア・パーヴイン氏。(右下)アーティスト・グループ「dumb type」の創設メンバーの一人で現在、京都市立芸術大学理事長・学長の小山田徹氏

デンマークの建築家 ヤン・ゲール氏

5/14(木)のキーノートスピーカーは、『建物のあいだのアクティビティ』『人間の街：公共空間のデザイン』などの著書でも知られるデンマークの建築家、ヤン・ゲール氏。「何かが起こるから何かが起こり、そこからまた何かが起こる。」という言葉は有名ですが(『人間の街』より)、まさに多様な種類の人々が交差することを主旨としているこのイベントにおいて、多くの示唆を与えてくださるに違いありません。コペンハーゲンとオンラインでつないでリアルタイムトークをお届けします。会場からの質問も受け付けます。

「WikiHouse」の創業者 アラステア・パーヴィン氏

5/15(金)のキーノートは「WikiHouse」。レゴのキットのように、誰でも組み立てられる建築システムとして、2010年代からイギリスを拠点として始まったプロジェクト。運営主体となっているOpen Systems Labから共同創設者アラステア・パーヴィン氏にオンライン登壇いただき、WikiHouseが目指す建築の民主化について話を聞きます。WikiHouseの取り組みは私たちが今回「都市と循環2026」で掲げた“未来の古民家”というテーマにも多くのヒントをもたらしてくれると楽しみにしています。

「dumb type」メンバーの一人で京都市立芸術大学理事長・学長の小山田徹氏

5/16(土)は1990年代に「pH」「S/N」「OR」などの公演で世界を席卷したマルチメディア・パフォーマンス・アーティスト・グループ「dumb type」の創設メンバーの1人であり、その後「Art-Scape」「ウィークエンドカフェ」「バザールカフェ」などといった共有空間をつくる活動を続けてこられた小山田徹氏(現・京都市立芸術大学理事長・学長)です。小山田氏が行ってこられた活動は、「都市と循環」という交差の場や、あるいは今回会場とさせていただく京都市児童福祉センター跡の建物の行く末を考える上でも多くの示唆をもらえるでしょう。

タイムテーブル

タイムテーブルの詳細についてはウェブサイトでご確認ください(リンク入)

DAY1

オープニングを飾る5/14午前のプログラムは、「未来の古民家～ポストシティ～」。

馬場正尊(東京R不動産)ナビゲートのもと、前田瑤介氏(WOTA)、菅 健太郎氏(Arup)とのクロストーク。同時刻に第2会場では実験寺院 寶幢寺を運営する僧侶・松波龍源氏より、仏教の社会実装について聞きます。午後は唐紙職人「かみ添」の嘉戸浩氏、木桶職人の中川周士氏、若手建築家の橋詰隼弥氏と考える「工芸と建築の間」をテーマとしたトーク。共に保育園経営を行っている松本理寿輝氏、古川理沙氏による「教育と循環」、建設業界の方と共に語る「木造と循環」。古楽器・クラヴィコードの演奏付きのトークセッション「古楽器と循環」など。ヤン・ゲール氏のキーノートは夕方です。夜は「未来の古民家」展示会出展者の方々との交流会を開催します。

DAY2

朝は「建築と循環」トークセッション。塚本由晴氏、林千晶氏、馬場正尊の三者で未来の古民家について語り合います。

午後からは、1.未来の古民家ではどのようなマテリアル・屋根材が使われるのか。2.エネルギーの自給自足方法は。3.ドイツの森林、建築、エネルギー、地域経済のあり方 4.日本における自然素材による住宅のつくり方、以上、連続で登壇者を次々お迎えしてトーク。

第2会場では、風土・流通・関係性の観点から和食を再定義するトーク。京都の地下水についてリサーチしたアーティストとのトーク。里山の再編集についてのトーク。絹織物と里山の生態系についての映画「森を織る。」の上映など。WikiHouseのキーノートスピーチは夕方を予定しております。

夜は、大規模なミートアップパーティー。使われなくなった家電を電子楽器へと改造して演奏するELECTRONICOS FANTASTICOS!のメンバーによる特別ライブも開催予定です。

DAY3

最終日は、Artist in Residenceの活動を通じた地域再生・施設再生の可能性を読み解く「AIRと循環」トーク。その他、スポーツと循環、お金と循環などのトークセッション。小山田徹氏のキーノートは午後1時からを予定しています。

そして、最終のトークセッションは3日間の集大成「未来の古民家パワーセッション」です。今回、私たちはプログラムを作るリサーチの過程で海外の識者にも意見を聞きましたが、「Future Kominka」というコンセプトを伝えたとき、Kominkaという言葉が通じること、そしてこの組み合わせた語句に対する彼らの好意的な反応から、これからの家と暮らしについてのヒントが多く隠されていることを直感しました。どんなまとめになるか私たち自身、手探りの部分もありながら、このファイナルセッションに大きな期待を寄せています。

夕方5時からは疲れた脳を開放。クロージングイベントを行い、再び交流を楽しみながら祝祭的な雰囲気の中に3日間を締めくくります。



アートやパフォーマンス、音楽のゲストも充実、以下敬称略(左上)クラヴィコード作家、内田 輝。photo by feel kiyomizudera(右上)ELECTRONICOS FANTASTICOS! 和田永 Photo by Mao Yamamoto (左下)サウンドアーティスト、山本啓(右下)最終日のスペシャルゲスト、MOODMAN(DJ)

「未来の古民家」展示会とインスタレーション

「都市と循環」の柱のひとつである「未来の古民家」展示会は、これからの住み処や暮らしについての手がかりを得ることができ、建材、資源、工法など、多岐に及ぶ企業との連携のきっかけが得られる場になります。

その他、会場ではオランダ人アーティスト、サンダー・ワッシング氏による、柑橘類が摘み取れる巨大屋根のアートインスタレーションや、フランス人アーティスト、イザベル・ダエロン氏による、京都の地下水をテーマにした「地下水Cafe」、サウンドアーティスト武田真彦氏による、地下空間を使った音のインスタレーション。GASBON METABOLISMによるアートなどが会場を彩ります。近畿圏のAIRの活動展示なども展開予定です。

循環をキーワードにさまざまな分野の実践者が集まり、これからの経済や社会のあり方を語り合うフェスティバル、ぜひ有益なネットワークと、新たな目線を獲得しにいらしてください。この場で発酵しましょう！

4/30まで10%OFFチケットを販売中

3days(3日間通し)チケット、1dayチケット、Under29、学生チケットの種類がございます。3daysチケットと1dayチケットについては、4月30日(木)まで10%OFFでのご提供がございます(それ以後は定価となります)。販売枚数に限りがありますので、お早めにご購入ください。

チケット購入(Peatix)

<https://cccf2026.peatix.com/>

※4月30日(木)23:30まで10%OFF価格、その後は定価販売となります。

■3daysチケット: ¥30,000→**10%OFF**価格 ¥27,000

■1dayチケット: ¥17,000→**10%OFF**価格 ¥15,300

■U29 3daysチケット: ¥15,000

■U29 1dayチケット: ¥8,500

■学生 3daysチケット: ¥3,000

■学生 1dayチケット: ¥1,700

イベント概要

名称: 都市と循環 Circular Cities Conference & Festival 2026

内容: カンファレンス+展示会+交流会その他

日程: 2026年5月14日(木)、15日(金)、16日(土) 3日間

会場: 旧・京都市児童福祉センター(京都府京都市上京区竹屋町通千本東入主税町910-25)

主催: 「都市と循環」実行委員会(窓口/R不動産株式会社)

共催: 京都市

公式サイト: cccf.jp

公式Instagram: [@cccf_jp](https://www.instagram.com/cccf_jp)

[本件に関するお問い合わせ
junkan@speac.co.jp](mailto:junkan@speac.co.jp)